

《お願い》今回送付の「在京白聖会会報」第37号は「転送不要」での配達とさせていただきます。会員の住所変更を把握するためです。戻ってきた郵便物については、転居届連絡はがきを封入して再送させていただきます。

《2014年度在京白聖会クラブ活動スケジュール》

- 10月24日(金)「在京白聖会ゴルフ大会」  
(会場：ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎/茨城県龍ヶ崎市)〈8面〉
  - 11月8日(土)「ル・サロン・ブラン」(芸術鑑賞クラブ)  
(古河・篆刻美術館を訪ねる)(場所：茨城県古河市)〈1面〉
  - 12月8日(月)-13日(土)「白聖芸術祭」  
(会場：文房堂ギャラリー/千代田区神田神保町)〈1面〉
  - 12月13日(土)「白聖歌会」  
(宮沢賢治と五行歌の朗読会：文房堂ギャラリー)〈8面〉
  - 平成27年2月15日(日)「歌の祭り」  
(会場：渋谷区笹塚/Blue-T〈ブルーティ〉)〈2面〉
- ※ご質問、お問い合わせは事務局 03-6404-6379 へお気軽にどうぞ。



**文房堂ギャラリー**  
〒101-0051  
千代田区神田神保町1-21-1  
文房堂ビル4F  
Tel: 03-5282-7941  
(会場直通：会期中のみ使用可能)  
Tel: 03-3291-3445  
(ギャラリー事務所)  
http://www.bumpodo.co.jp/  
\*ギャラリーへはエレベーターを利用。  
《アクセス》「神保町」駅(東京メトロ半蔵門線、都営三田線、新宿線)A7出口、徒歩3分/JR「御茶ノ水」駅御茶ノ水橋口、徒歩10分

# 2014白聖芸術祭

## 年末恒例「白聖芸術祭」でお会いしましょう 12月8日(月)〜13日(土) 文房堂(神田神保町)で開催

第7回「白聖芸術祭」は、会場が広くてゆったりくつろげると大好評だった昨年と同じ文房堂(ぶんぼうどう/神田神保町)を会場に開催します。昨年は絵画・書・彫刻・写真・歌唱など約60名の出演・出演がありました。が、スペースにはまだ十分に余裕がありました。多くの皆様のご出演、ご出演とご来場をお待ちしております。

「白聖芸術祭」は、いわば在京白聖会の文化祭。絵や書、彫刻に限らず、写真や歌唱、演奏、舞踊など、あなたの一芸で参加できます。「白聖芸術祭」の主役はあなた。この機会にぜひ、

# 在京白聖会報

### 第37号

平成26年9月20日

発行

岩手県立盛岡第一高等学校在京同窓会

在京白聖会

(事務局)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03) 6404-6379

FAX: 直通 (03) 6404-6379\*00

E-mail: hakua\_office@pmp-jp.com

(http://www.hakua.org/tokyo/)

〒143-0015 東京都大田区

大森西2-17-4-201

TEL: (03

役員人事

新会長・内村泰氏(S39卒)  
新事務局長・藤井則夫氏(S47卒)  
役員人事が一新されました

本年5月10日(土)に開催された第46回在京白聖会総会で、新役員人事が承認され、人事が一新されました。



馬場信前会長からバトンタッチした内村泰新会長(左)

新会長に選任されたのは、内村泰さん(S39卒)です。内村さんは、平成17年から8年間会長を務められた馬場信さん(S41卒)を副会長として補佐してこられました。在京白聖会愛で、これまでの活動を継承し、力強くリードしていただけるものと期待しております。  
副会長は会長に昇格した内村さん、戸来ソウ子さん(S40卒)に代わって戸田純さん(S48卒)、三浦千波さん(S50卒)が新たに就任しました。  
事務局長も山田武秋(S42卒)から藤井則夫さん(S47卒)に

なお、新執行部は以下の通りです。

●正副会長その他役員

- 会長 内村 泰 (S39卒)
- 副会長 戸田 純 (S48卒)
- 三浦千波 (S50卒)
- 監査 岩瀬佐千世 (S48卒)
- 会計 佐々木貴司 (S56卒)

●事務局関係

- 事務局長 藤井則夫 (S47卒)
- 事務局次長 (HP担当) 水原 滋 (S50卒)

々々

(名簿担当) 木村忠文 (S54卒)

●常任幹事

- 戸澤 聰 (S40卒)
- 白石源次郎 (S41卒)
- 船越巧子 (S42卒)
- 玉澤健児 (S43卒)
- 岩澤新治 (S45卒)
- 藤井則夫 (S47卒)
- 水原 滋 (S50卒)
- 伊藤馨一 (S52卒)
- 木村忠文 (S54卒)
- 伊藤 総 (S55卒)
- 佐々木貴司 (S56卒)
- 及川 謙 (S61卒)
- 菊池 拓 (S63卒)

●顧問

- 及川昭伍 (S25卒)
- 馬場 信 (S41卒)

●参与

- 八重畑達男 (S18卒)
- 松橋暉男 (S25卒)
- 大平洋司 (S26卒)
- 外山浩子 (S32卒)
- 戸来ソウ子 (S40卒)

クラブ活動 報告&募集

在京白聖レディス会  
6月21日(土)開催

第10回在京白聖レディス会が6月21日(土)、銀座の「SUN・mi高松7丁目店」にて開催されました。出席者は17名。そのうち初参加は2名でした。

今年ゲスト講師に、5月まで在京白聖会会長であった馬場信さん(S41卒)をお迎えして、「溶接がものづくりを支えるー溶接とは何か」というテーマでお話していただきました。溶接の進歩が建築や造船・自動車製造など、あらゆる製造業に貢献しているというお話はとても興味深いものでした。  
来年もまた、今年同様に行う予定です。



2014年8月3日開催の「第11回 歌の祭り」参加者



ゲスト講師の馬場信・前在京白聖会会長(前列中央)を囲んで、「在京白聖レディス会」参加者の皆さん

歌の祭り  
次会は来年2月15日(日)

第11回「歌の祭り」は8月3日(日)、渋谷区笹塚の中国茶レストラン「ブルーティ」にて24名参加し開催されました。  
次回、第12回「歌の祭り」開催は平成27年2月15日(日)。詳細の問合せ・申込みは大内秀之(S35卒・電話&FAX03-866-2116)まで。申込み締切りは平成26年11月30日(日)。

2014 総会報告

おらほの一高、いまむかし  
〜お気に入りのお歌は！

日時：平成26年5月10日(土)  
講演会15:00〜、総会・懇親会16:00〜  
会場：東京ガーデンパレス(御茶ノ水)



岩手のスーパーキッズ育成の現状について語った西郷晃氏 (S57卒) の記念講演

平成26年5月10日(土)、東京ガーデンパレスにて、五月晴れの中、第46回在京白聖会総会が開催されました。今年は320名の方にお越しいただき、昨年に続いて大変な盛況となりました。当日は来賓として、盛岡一高の高橋廣至校長、白聖同窓会の谷村邦久会長、恩師として、山田預喜先生、石田 洵先生、佐藤三樹夫先



菊池大成氏 (S57卒) のピアノ演奏

生にご臨席を賜りました。総会に先立つ記念講演会では、東和中学校校長 西郷晃さん(S57年卒)が「いわてスーパーキッズ発掘・育成事業の取り組み」として若手スポーツ選手育成について講演、さらに国立音楽大学附属中・高校講師、菊池大成さんがピアノ演奏を行いました、大好評を博しました。「おらほの一高、いまむかし」をテーマに掲げた懇親会では、高橋校長からのご挨拶に加えて、30年前のスナップ写真を集めたスライドショーと、現役学生による最近の一高の紹介ビデオを上映しました。メインイベ



総会風景

ントは、「むかし」から「いま」まで一高生すべての共通項である応援歌の人気ランキング発表です。当日の投票によるランキングの結果は、第5位：第九、第4位：第六、第3位：第一、第2位：第八(壮行歌)、そして栄えある第1位は第二応援歌(凱歌)となりました。順位発表のたびにどこからともなく口ずさむ歌で会場は自然に一体となり、最後に第二応援歌を全員で声高らかに歌って会場の熱気は最高潮に達しました。来年は昭和58年卒の皆さんが幹事年ですが、すでに大幹事団が結成され万全の体制で準備を進められているようです。きつ



(写真上) 応援歌の人気ランキング投票では、第二応援歌が第1位に選ばれた



(写真下) 講師の西郷晃さんがプレゼンターを務めた「お楽しみ抽選会」



懇親会風景



来年の総会幹事を担当する58年卒の皆さん



今年の幹事団(57年卒の皆さん)に感謝のエール

とまた素晴らしい思い出になるであろう来年の総会で、皆様に参加することを楽しみにしております。ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。(昭和57年幹事団一同)

※総会写真撮影：猪原秀己(S57卒)ほか

石川啄木と折口信夫



校友会誌復刊号に掲載された折口信夫の啄木講演録

折口信夫は石川啄木に強く影響を受けた歌人『釈超空』として有名です。『一握の砂』刊行100年にあたる2010年に、石川啄木記念館で彼が評釈を書き入れた『一握の砂』が公開され、ご覧になった方も多いと思います。

折口信夫は、昭和23年5月5日に母校(この年、旧制盛岡中学が廃止され岩手県立盛岡第一高等学校となる)で講演し、その講演録が翌24年5月1日に復刊された校友会誌『創造』に掲載されました。盛岡中学校校友会雑誌の第一号は明治33(1900)年に発刊され、石川啄木は第九号に評論『林中書』(明治40年3月)、第一〇号に評論『一握の砂』(明治40年9月)を発表しています。

この復刊号は当時の自治会副委員長 及川昭吾さん(S25卒・現在京白聖会顧問)にご提供いただいたものであります。執筆者に在京会員の佐々木則雄さん(S24卒・当時高3)、村山登さん(S26卒・当時高1)のお名前が見えます。折口信夫のこの評論は『折口信夫全集』(新版第30巻/1997年/中央公論社)に収録されていますが、校訂が入った全集版とは表記の異なる掲載当時の全文をここに再録しました。

石川啄木から出て

文学博士 折口信夫

今日は諸君の大先輩であります情熱の詩人石川啄木の事について少し話してみたいと思います。私は若い頃金田一京助先生に最も早く言語学をおそりました。

当時私は学生でちよこ(先生の下宿へ伺いましたが或る日石川君が上京しているから、私にも一緒に話して見ないかと云われましたが、私も若かつたので恥かしくて、そのまゝ、帰りました。その後会う機会もなく、今でも残念に思う事の一つです。今日は此処に来ましたので石川啄木の歌を中心として文学の話をして見たいと思います。

啄木は小説もかいていたのですが大したものはない様です。一体に啄木はどの方面の文学に於いても成功はしなかつた様ですが、ある点から言つて、文学者が個事作物に成功すると言つことは、大したことではない時もあるのです。歌方面について言つてよいことは、啄木の歌に、自身の物がよいというより、多くの後続のよい歌人を出したという所に、その偉さがあつた。諸君の良く知つている歌は「盛岡の中学校のバルコンの手すりにも一度我を寄らしめ。」

と云う歌であろうと思います、啄木の少年時代或いは彼の青年時代の感激にひたりたいと云う様な心で歌つたものですから、その歌に於ける啄木の心持ちは、少青年時代にある諸君の心に、そのまゝ、受け入れられるところがあつたでしょう。

啄木の歌は、世間でもてはやされているが、あなた方にはどこが良いか解らないがともかく、それを読んで見ると驚かされると言つやうなものが多いでしょう。「一握の砂」の序文を朝日新聞社会部長であつた藪野椋十(澁川玄耳氏)が書いているがその中に「啄木と私は年が違つので彼の感ずる所は私には解らない。しかしそれにも拘らずこの歌を見ると何か驚かされるものがある、と云う様な事が書いてある。文学は子供に良くわかると同時に、年長者にもよく分る様にせねばならないが、そうかと云つて、諸君に解る文学が、赤ん坊にわかると云うことはない。あなた方よりずっと教養の低い人々も、何の困難なく理解出来る筈はない。

今迄の文学は年寄に解るものは幼年者にわからず幼年者に解るのは年長者に同感せられたことが多かつた。「よこれたる足袋はくときの気味わるき想いに似たる思い出もあり。」この歌は、年のいつた我々にも若い諸君達にもよく解る歌である。諸君達は若いのでその若さにまかせて、色々悪ふざけをする。暴れるなどしますが、ほんとうに悪い人はありません。大人はぬぐつてもぬぐいきれない悪いことをしていることもないとは言えない。後になつて想い出すと恥かしくて、再びしたくないと思う。自分で自分のした事を恥じる。それは古い足袋をはくと何となく冷たい油にしみてる、何かしらぞつとする様なのを歌に言つています。人間は反省が無ければならぬ、子供にも大人にも此の歌のよんでいゝ事がよく胸にのこる。かう言つて感心すると言つた風に藪野椋十の序文の意味は、くみとれるのです。これを讀んで、文学的であるか否かについては昔風の人なら、こんなのは歌でないと考えます。ところが、今の歌では、そういう考え方はしません。昔の人は文学は必ず美しくなければならぬと思つていたので、今迄反省したことのないよいうなことを反省するのは、其だけ人間を一段高い処に上げることにあります。啄木は昔の人のいう文学的要素には欠けていた

がもつと大事なものを持つていて良く解る歌を讀んだ。啄木は、あなた方とは関係が深いので精しく話してよいでしょう。啄木は昔、新体詩を作つていまして、又それがうまかつた。うまい筈で先輩の作風を巧みに真似たものが多かつた。若い時の啄木だからです、しかし其後北海道まで転々と放浪の旅を続けて、短時日に大変苦勞をした。その為、人間が早くできあがりました。又彼はおもしろい俳諧歌などいふものをこしらへた。これはおかしな歌である。彼は、木下空太郎という私の友人と、面白い歌をつくつて人を笑わせようとした。その面白い歌のかけには人間の痛いところをついている処もあつて、笑つて居り乍らも急にふつと笑いが止まる。人のした事を笑つて居る、よく考へて見ると、これは笑つていられないと考へさせる事もある。若いあなた達には、そう云う経験はないかも知れないが、我々にはよくあります。日本の文学には、始めはたゞおかしなと思つたものが、良く考へて見ると、自分も笑つて居る事が出来なくなる。例えば芭蕉の句などにも、ちよつと見ては面白いが、よく考へると、寂しい感じのするものがあります。啄木も、そう言つて歌を作つてゐる間に、真面目な歌をつくる様になつた。自分の経歴を

笑っているが、その中に何とも言えない厳肅感が出て来た。我々の人生には、笑つてすませることばかりあるのではありません。啄木は、皆に共通な感情を歌としたのです。彼が初めの頃つくつた人を笑わせる様な歌を見て、あなた達は啄木の歌は面白いと思つていて、それが、その中のある物が、自分の厳肅な気持と通ずるもの、あることを考えられる事があるでしょう。人生を反省する力がある。思ひがけない所から、われ／＼の生活の真の姿が示されて来る。それは文学の効能であるが、それがなければ、文学は遊戯であると思えます。今迄の人の文学が遊戯的であつたのは、この効果がなかつた為である。次にあなた方が読んで気持ちしつくりとする歌として

「東海の小島の磯の白砂に吾れ泣き濡れて蟹と戯むる。」この歌は、調子の高いものと感じられている様ですが、誇張がしてある。青年の悲しみの上に、文学らしい条件を空想して、付け加えている。

啄木は片方には、ふざけた歌をつくつて来ていたが、だんだん、真面目と、不真面目の境界がつかなくなつた。そして、啄木は自然と、落着いた歌をつくる様になつた。「ふるさとの山に向かいて言

ふことなし、ふるさとの山はありがたきかな。」此の頃になると、啄木には、嘘もかけねもなく、如何にも、その心の底にある厳肅感がやさしさに充ちた調で表現せられて来た。

此の歌をよむと、岩手山の麓に暮す者は、啄木ならずとも、この歌は皆の共通の感じを適切にうたつて居る。悲しいか嬉しいかは歌つて居ないが、自然に衿を正す様な気持になる。これは啄木の歌の「質」が良いからであります。其が文学の持つ「正しさ」です。啄木はだん／＼歌は、短いものだが、他の大文学と違わない純な人の心を動かす様になりました。

「高さ山の頂に登り何かなし帽子を振り下りきしかな。」私はこれを読んで、啄木ははじめて完成に達したと考えました。諸君達は、何にも感じないかも知れませんが、昔はこの様な歌を作るものはなかつたのです。私共の若い頃は、こんな歌は意味のないものと考えられました。この歌は単純でありその良さを説明してくれと云われるとちよつと困る。何か良いものがある。歌の内容は、日常の普通にあるものであるが、そう思つて居るものが、人には重要なものである事が、往々にしてあります。昔の文学はそういう平凡な事は、歌の題材に取らな

かつた。しかし啄木は平凡なものを題材に採つてそれをこなし、却て我々の気持に触れしめたのです。此れより人々は激情的な事を作るより、世の中の平凡なことを歌ふ様になりました。啄木が亡くなつた明治四十五年前後から、歌は変化して来ました。此れはある部分まで彼啄木の力に由るものであります。苦しんで居るうちに、知らず知らずのうちに、達した啄木は、色々な歌を歌つています。そうして、かう言ふ所まで抜け出て来るのです。啄木に到るまでの間に、歌はいろ／＼な歴史を経て来ました。さう言ふ歌にも、真実感といふものが必要でありました。其にもか、はらず、唯美しく、唯悲しく、或はそんなことに関係ない悲しい時も、楽しい時も、おなじ調子のなだらかな歌をよむべきものだと考へたことも、久しい習慣だ。

そう言うことが、いろ／＼文学をよくしたり、わるくしたりする形を知つて貰いたいと思う。啄木の先生は、与謝野鉄幹(又、寛)であります。鉄幹の歌に「奈良の世は千歳の先に過ぎけるかあらずや花に佐保の風吹く。」この歌は自然を、感情に流しこんでうたつていますが、此の様な歌は新しい歌を作りはじめてからの啄木には一つもありませ

ん。啄木は人間や、今の世に係のないものは、つくらないことにしていたのです。此の歌と啄木の足袋の歌とは大違つてゐることがおわかりでしょう。江戸時代末期の歌人であつた香川景樹の歌に「かすが野に若菜をつめば我乍ら昔の人の心ちこそすれ。」と言つてあります。この歌は、人生もなく、又は、その個性など言ふものもありません。今の自分であつて、昔の人の心地がすると言ふ意味です。鉄幹の歌と意味はほとんど同じであるが、感激は全然違つて居るので、鉄幹のは自分の心の動きを示そうとして、苦しんで、います。そうして、歌が深く這入つています。景樹のは教文の断片を見ようなものです。単に報告しているに過ぎません。これに依つても歌と散文の違いがわかるのであります。これをあなた方は、どの文章はどの文章より良く、どの歌がどの歌よりよいと云う様な事をする事はないかも知れませんが、さうゆう事をする様に努めたい。同じ題材が入りこみ方の程度が違う。文学には、深い浅いがある。文学は自分の意志を伝えるだけではない。感情をも伝えなければならぬのであります。景樹の後の歌人として加納諸平(江戸時代の歌人)と云う人が、同じ様な事を詠んでいます。

「引馬野の木の芽はりはら入り乱れ春日くらすは昔人も。」相当にいい歌です。歌は簡単だが、かうして思うと、表し方が皆違ひます。何故そうなるのか、如何にすれば我々のつかんだ事が、適切に表わされるかと言ふ問題になる。一つの思想を表すには、一つの文章よりないと云う理想は誰でも持つてゐます。だが、これは、空想です。諸君も練りに練つて、これしか書けないと云うところ迄つきつめて書くやうにならねばなりません。現実に、自分たちの考えどおりにゆかないでも、どんな方面でも、厳肅な気持であたらなければなりません。心にとるみをもつて、文を書くこと読む人にもたるみが出来て、罪悪感を持たせる。しかし幸に諸君達は目前に、立派な先輩石川啄木を持つています。その歌を見る事は、啄木を通じて諸君の生活を説明してもらつて事である。君達には長い将来があります。(昭和二十二年五月五日於本校講堂)

◆折口信夫先生略歴!!  
明治廿年大阪に生れる。同四十三年国学院大学卒業。歌人筆名釈迢空。歌集「海山のあひだ」その他、民族学国文学者、著書「口譯萬葉集」三卷「萬葉辭典」「古代研究」その他現在国学院大学教授、慶応大学教授

(注) 著書名以外、旧漢字は新漢字に改めましたが、校訂を経た『折口信夫全集』と異なる表記は、『校友会誌』に従いました。







集合写真撮影：猪原秀己(S57卒)

(写真左) 本年度総会幹事、57年卒の皆さんの総会終了後の打ち上げ風景。晴れ晴れとした皆さんの表情が印象的です。1年間、ほんとうにありがとうございました。

### 在京白聖会ゴルフ大会

#### 10月24日(金) —— ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎にて

第12回 在京白聖会ゴルフ大会を開催します。ルール、表彰は従来通り。対抗戦、個人戦を行います。東京駅〜会場間の送迎バスもあります。

#### 開催概要

- ▼開催日：平成26年10月24日(金)
- ▼場所：ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎
- ▼スタート時間&募集組数：9:15〜OUT/IN各3組、計6組
- ▼料金：14,800円  
円キヤディ付。食、昼食、懇親会オードブル4品
- ▼参加費：3,000円
- ▼送迎バス：東京駅から往復バスをチャーター(往復3,500円。7:00頃出発予定)
- ▼申込み先及び申込み締



### 白聖歌会 (ネット歌会にリニューアルしました)

鳥居のあなたは海  
ここは出雲の岬  
茜空の向こうへ  
昭和の残党  
二人で行かな

八十若 (S28卒・小山達雄)

新緑の匂いを含んだ  
皐月の風が  
そっとまとわりついて  
移り香を残し  
吹き抜けていった  
だいてんち (S36卒・星野彦)

春風が編んだ  
桜の花筵の上で  
戯れる小鳥たち  
春の陽射しを  
楽しんでる

伊奈 裕 (S38卒・稲垣裕雄)

春の陽に  
まじろむ娘の  
横顔を  
幼い日の面影  
重ねつつ見る

吉田美雅子 (S45卒)

白聖五行歌会は、名称を「白聖歌会」に変更し、代表が星邦彦さんに交代、ネット中心の歌会にリニューアルしました。五行歌だけでなく、短歌、俳句、川柳など、どなたでも自由に投稿できます。「白聖歌会」のネット投稿は下記URLからできます。  
<http://9324.teacup.com/gogyouka/bbs?>

### 白聖歌会

#### 12月13日(土) —— 野口田鶴子さんの朗読会

白聖歌会は、恒例の野口田鶴子さん(S40卒)による宮澤賢治&五行歌の朗読会を、今年も白聖芸術祭最終日の12月13日(土) 13:00から開催します。

切り：①氏名②卒業年次③連絡先住所&電話番号④チームの場合代表者氏名⑤送迎バス利用の有無を明記の上、10月3日(金)までに本年の担当幹事(前年優勝チーム)までメール・FAX or 郵送でご連絡ください。先着順とします。  
▼本年の担当幹事：石井充(S42卒) 〒156-0054 世田谷区桜丘2の24の11。  
(FAX) 03-3427-9692  
(メール) [shiroseino@ncc.ncc.ac.jp](mailto:shiroseino@ncc.ncc.ac.jp)  
※大会詳細は、参加申込者へ後日郵送いたします。

### ア・ラ・カルト

#### 鈴木文彦さん(S40卒) 編集

『銭形平次捕物控傑作選』刊行  
紫波町出身でM35卒の大先輩、野村胡堂の傑作『銭形平次捕物控』全383篇の中から24篇を選んだ傑作選が発売された。選は元「オール读物」編集長の鈴木文彦さん(S40卒)。第3巻の刊行の経緯を書いた鈴木さんの解説も必読です。



文春文庫『銭形平次捕物控傑作選』  
(1) (2) (3) 各490円+税

#### 伊東明子さん(S50卒)

女流作家協会「第68回展」入選  
伊東明子さん(S50卒)が女流作家協会の今年度公募展に入選しました。同展は全国規模の公募展で、新人の登竜門として有名です。

『編集後記』今年、会長から事務局まで一新されました。新しい風にご期待下さい。今号の目玉は、昭和24年、復刊された校友会誌に掲載された折口信夫の「石川啄木から出て」と題する講演録の再録です。読書の秋、改めて母校先輩の偉大さに触れていただければ幸いです。  
(Y)